令和７年７月 13 日（日）施行

第 219 回　全経簿記能力検定試験　２級　工業簿記　解答

第１問

1	間接材料費	2	直接労務費	3	間接労務費
4	直接材料費	5	間 接 経 費		

第２問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	524,000	買掛金	524,000
2	仕掛品 製造間接費	302,000 18,000	材料	320,000
3	仕掛品 製造間接費	500,650 21,850	賃金	522,500
4	仕掛品	463,000	製造間接費	463,000
5	製品	910,000	仕掛品	910,000
6	売掛金 売上原価	1,269,000 940,000	売上 製品	1,269,000 940,000

無断複製・転載を禁じます

第３問

直　接　材　料　費

月初仕掛品	？	個	￥ 168,320	当月完成品	2,420	個	（ ￥ 2,995,520 ）
当 月 投 入	？	個	￥ 3,100,000	月末仕掛品	？	個	（ ￥ 272,800 ）

加　　工　　費

月初仕掛品	？	個	￥ 117,070	当月完成品	2,420	個	（ ￥ 4,464,570 ）
当 月 投 入	？	個	￥ 4,469,600	月末仕掛品	？	個	（ ￥ 122,100 ）

第４問

①	エ	②	ア	③	イ	④	ウ	⑤	オ

第５問

原　価　計　算　表　　（単位：円）

摘要＼指図書	＃19	＃20	＃21	合　　計
月初仕掛品原価	（ 542,650 ）	——	——	（ 542,650 ）
直 接 材 料 費	（ 16,200 ）	（ 92,820 ）	（ 119,460 ）	（ 228,480 ）
直 接 労 務 費	（ 152,100 ）	（ 280,800 ）	（ 191,100 ）	624,000
製 造 間 接 費	（ 187,200 ）	（ 345,600 ）	（ 235,200 ）	（ 768,000 ）
合　　計	（ 898,150 ）	（ 719,220 ）	（ 545,760 ）	（ 2,163,130 ）
備　　考	完　成	完　成	仕 掛 中	

無断複製・転載を禁じます

令和７年７月 13 日（日）施行

第 219 回　全経簿記能力検定試験　２級　工業簿記　解説

第１問

１．印刷機のトナー消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる材料費ではないため、消耗工具器具備品費として**間接材料費**となる。

２．印刷機の設定作業に従事した時間に対する直接工の賃金消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる労務費であるため、**直接労務費**である。

３．印刷機のメンテナンス作業に従事した時間に対する修繕工の賃金消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる労務費ではないため、**間接労務費**である。

４．印刷機に投入された紙の消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる材料費であるため、主要材料として**直接材料費**となる。

５．印刷機の稼働にともなって発生した電力料は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる経費ではないため、測定経費として**間接経費**となる。

第２問

１．機械の製造に用いる素材（主要材料）と消耗品（工場消耗品）を購入した場合には、借方に材料勘定（資産の増加）を用いて処理する。

代金は翌月末に現金で支払うこととした場合には、貸方に買掛金勘定（負債の増加）を用いて処理する。

材料の取得原価＝素材￥500,000＋消耗品￥24,000＝**￥524,000**

２．素材を出庫した場合には、貸方に材料勘定（資産の減少）を用いて処理する。

出庫した素材のうち、製造ラインの修理用である素材は間接材料費となるため、材料勘定（資産の勘定）から製造間接費勘定（費用の勘定）へ振り替える処理をする。

出庫した素材の残りは、直接材料費となるため、材料勘定（資産の勘定）から仕掛品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。

仕掛品（直接材料費）の金額＝￥320,000－￥18,000＝**￥302,000**

３．当月の直接工による賃金を消費した場合には、貸方に賃金勘定（費用の勘定）を用いて処理する。

当月の直接工による勤務時間のうち段取時間と加工時間に相当する賃金は、直接労務費となり、賃金勘定（費用の勘定）から仕掛品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。

当月の直接工による勤務時間のうち清掃作業時間と手待時間に相当する賃金は、間接労務費となり、賃金勘定（費用の勘定）から製造間接費勘定（費用の勘定）へ振り替える処理をする。

加工時間＝勤務時間 560 時間―段取時間 35 時間―清掃時間 15 時間―職場離脱時間 10 時間
―手待時間 8 時間＝492 時間

仕掛品（直接労務費）：実際消費賃率@￥950×（段取時間 35 時間＋加工時間 492 時間）＝**￥500,650**

製造間接費（間接労務費）：実際消費賃率@￥950×（清掃時間 15 時間＋手待時間 8 時間）＝**￥21,850**

※職場離脱時間は、賃金の支払対象外となるため、賃金の計上はしない。

４．当月の製造間接費実際発生額を各製品に配賦した場合には、製造間接費勘定（費用の勘定）から仕掛品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。

５．機械が完成し、倉庫に納入した場合には、完成品の製造原価を仕掛品勘定（資産の勘定）から製品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。

６．倉庫に納入してあった機械を顧客に引き渡した場合には、貸方に売上勘定（収益の発生）を用いて処理する。

代金については当月中に当座預金口座に振り込んでもらうこととしたため、売掛金勘定（資産の増加）を用いて

無断複製・転載を禁じます

処理する。

同時に売上原価を計上しているため、販売した製品の原価を製品勘定(資産の減少)から売上原価勘定(費用の発生)へ振り替える処理をする。

製造原価に 35%の利益を加算して販売しているため、以下のとおり、製造原価を計上する。

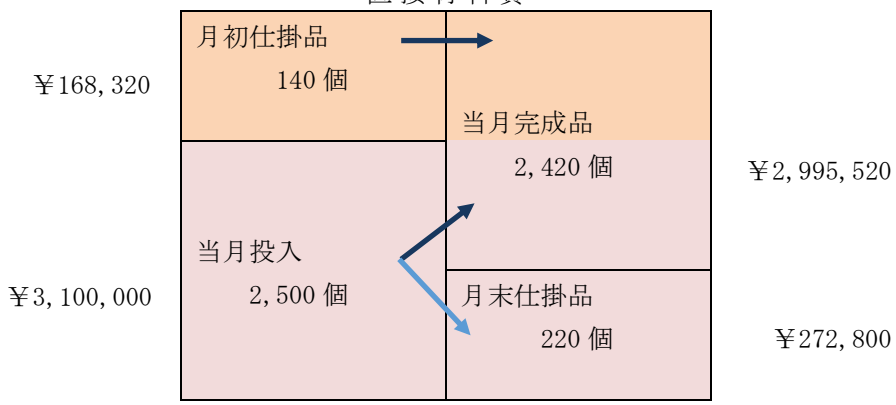
製造原価＝売価￥1,269,000÷(100%＋35%)＝**￥940,000**

第３問

月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料はすべて工程の始点で投入　月末仕掛品の評価は先入先出法によって計算

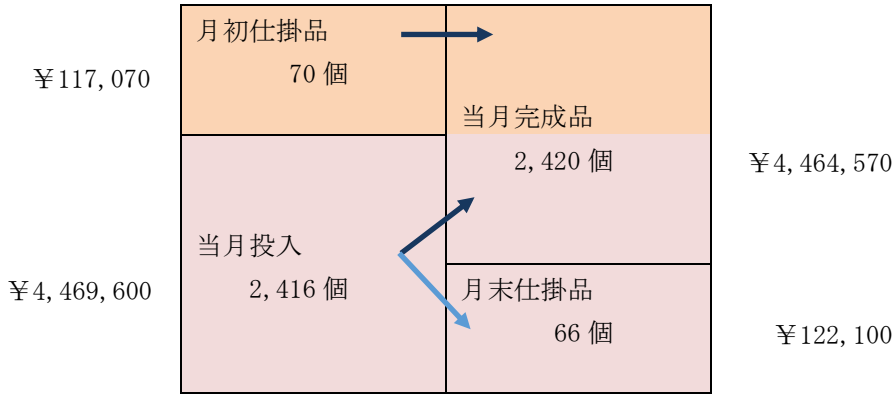
直 接 材 料 費



月末仕掛品原価：　￥3,100,000÷2,500 個×220 個＝**￥272,800**

当月完成品原価：　￥168,320＋￥3,100,000－￥272,800＝**￥2,995,520**

加　工　費



月初仕掛品の換算量＝140 個×50%＝70 個

月末仕掛品の換算量＝220 個×30%＝66 個

当月投入　の換算量＝2,420 個＋66 個－70 個＝2,416 個

月末仕掛品原価：　￥4,469,600÷2,416 個×66 個＝**￥122,100**

当月完成品原価：　￥117,070＋￥4,469,600－￥122,100＝**￥4,464,570**

第４問

ア．当月に消費した燃料費：間接材料費にあたる

→　**材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。**

イ．当月の運搬工に対する賃金消費額：間接労務費にあたる

→　**賃金勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。**

ウ．当月に倉庫に搬入された製品の原価

→　**仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわす。**

無断複製・転載を禁じます

エ．当月の買入部品消費額：直接材料費にあたる。

→　**材料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。**

オ．当月に販売された製品の原価

→　**製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわす。**

①　材料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち直接材料費を意味している。よって、製品に取り付ける買入部品の消費額をあらわしていることになるため、　エ　　となる。

(借)	仕　掛　品	(貸)	材　料

②　材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、燃料費の消費額をあらわしていることになるため、　ア　　となる。

(借)	製造間接費	(貸)	材　料

③　賃金勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。
これは、賃金の消費額のうち間接労務費を意味している。よって、運搬工に対する賃金消費額をあらわしていることになるため、　イ　　となる。

(借)	製造間接費	(貸)	賃　金

④　仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわしている。
これは、当月に完成した製品の原価の振り替えを意味している。よって、倉庫に搬入された製品の原価をあらわしていることになるため、　ウ　　となる。

(借)	製　品	(貸)	仕　掛　品

⑤　製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわしている。
これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振り替えたことを意味している。
よって、当月に販売された製品の原価をあらわしていることになるため、　オ　　となる。

(借)	売上原価	(貸)	製　品

第５問

直接材料費（資料４．当月の材料元帳より）

材料元帳

（移動平均法）　　Ａ材料　　（単位：円）

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1	前月繰越	80	540	43,200				80	540	43,200
	2	出庫(#19)				30	540	16,200	50	540	27,000
	3	仕入	250	547.2	136,800				300	546	163,800
	4	出庫(#20)				170	546	92,820	130	546	70,980
	10	仕入	150	540.4	81,060				280	543	152,040
	20	出庫(#21)				220	543	119,460	60	543	32,580
	30	次月繰越				60	543	32,580			
			480		261,060	480		261,060			

無断複製・転載を禁じます

直接材料費の転記（材料元帳作成より）

＃19：6/ 2 出庫分　**¥ 16,200**

＃20：6/ 4 出庫分　**¥ 92,820**

＃21：6/20 出庫分　**¥119,460**

直接労務費の計算（資料５．当月の直接工による作業時間の内訳 と 原価計算表の直接労務費の合計より）

① 各製造指図書の直接作業時間を計算する　加工時間と段取時間が直接作業時間となる

＃19：4 時間＋ 74 時間＝ 78 時間

＃20：9 時間＋135 時間＝144 時間

＃21：7 時間＋ 91 時間＝ 98 時間

直接作業時間の合計を計算する　78 時間＋144 時間＋98 時間＝320 時間

② 直接工の１時間当たりの賃金を計算する

直接労務費の合計¥624,000÷直接作業時間の合計 320 時間＝@¥1,950

③ 直接作業時間に１時間当たりの賃金をかけて直接労務費を計算する

＃19：　78 時間×@¥1,950＝**¥152,100**

＃20：　144 時間×@¥1,950＝**¥280,800**

＃21：　98 時間×@¥1,950＝**¥191,100**

製造間接費の計算（資料５．当月の直接工による作業時間の内訳 と 資料６．当月の製造間接費実際発生額より）

① 各製造指図書の直接作業時間を計算する　加工時間と段取時間が直接作業時間となる

＃19：4 時間＋ 74 時間＝ 78 時間

＃20：9 時間＋135 時間＝144 時間

＃21：7 時間＋ 91 時間＝ 98 時間

直接作業時間の合計を計算する　78 時間＋144 時間＋98 時間＝320 時間

② 製造間接費の１時間当たりの配賦額を計算する

製造間接費実際発生額¥768,000÷320 時間＝@¥2,400

③ 直接作業時間に１時間当たりの配賦額をかけて製造間接費を計算する

＃19：　78 時間×@¥2,400＝**¥187,200**

＃20：　144 時間×@¥2,400＝**¥345,600**

＃21：　98 時間×@¥2,400＝**¥235,200**

製造指図書＃19　＜前月より製造着手　当月完成＞

月初仕掛品原価	¥	542,650
直接材料費	¥	16,200
直接労務費	¥	152,100
製造間接費	¥	187,200
合計	¥	898,150

製造指図書＃20　＜当月より製造着手　当月完成＞

直接材料費	¥	92,820
直接労務費	¥	280,800
製造間接費	¥	345,600
合計	¥	719,220

製造指図書＃21　＜当月より製造着手　当月仕掛中＞

直接材料費	¥	119,460
直接労務費	¥	191,100
製造間接費	¥	235,200
合計	¥	545,760

無断複製・転載を禁じます